

工夫(思考回路養成)の割合の変化

0~9歳(特に6歳)までの時期は要注意

昔

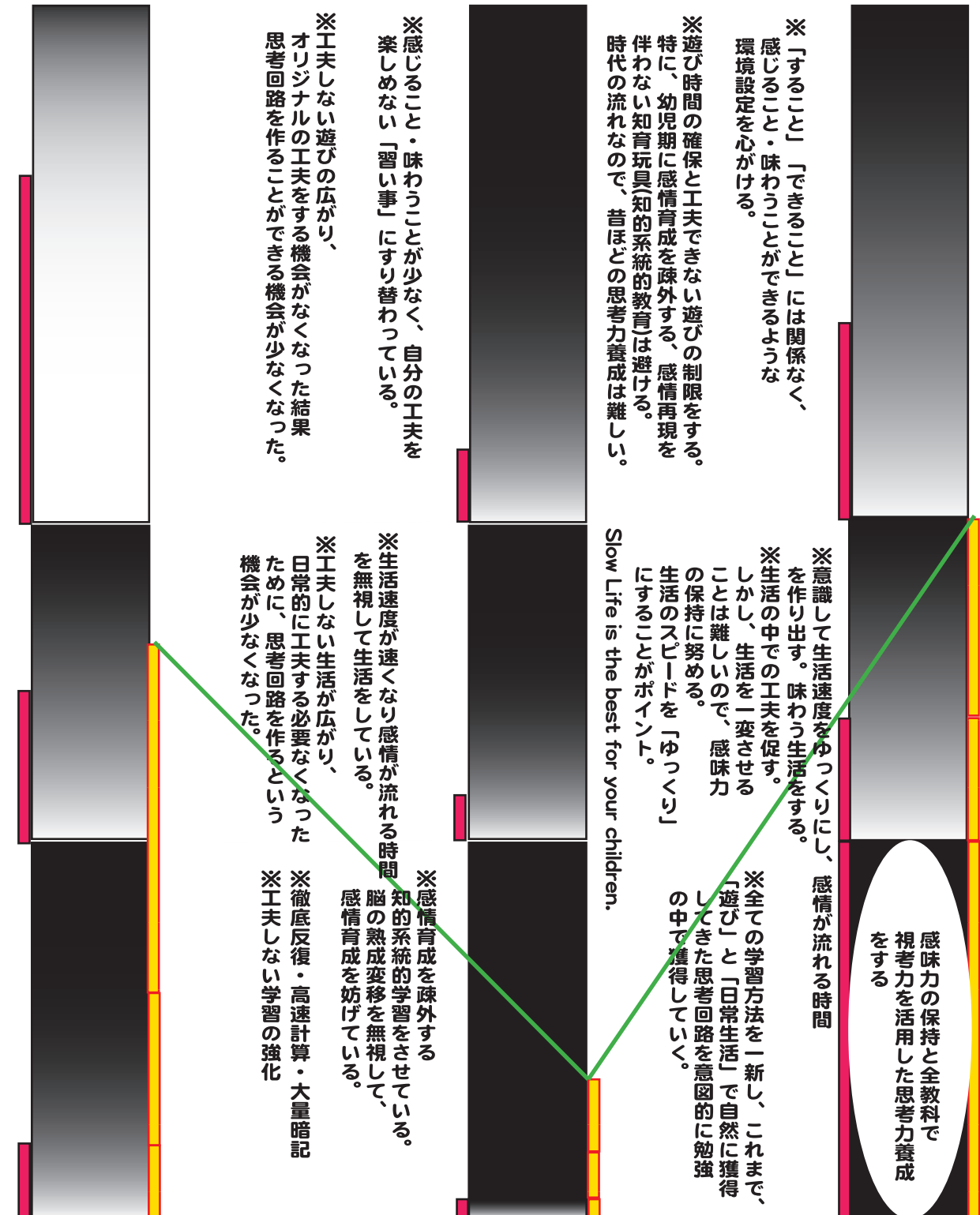
今

改善後

遊び

日常生活

勉強



※全ての「勉強方法」を思考力養成に直結する方法で行う。方法は「どんぐり倶楽部」で公開中。
 ※気付いても「遊び」と「日常生活」を変えるには時間を要するが「勉強方法」なら一瞬で変えられる

※「すること」「できること」には関係なく、感じる・味わうことができるような環境設定を心がける。

※遊び時間の確保と工夫できない遊びの制限をする。特に、幼児期に感情育成を疎外する、感情再現を伴わない知育玩具(知的系統的教育)は避ける。時代の流れなので、昔ほどの思考力養成は難しい。

※感じる・味わうことが少なく、自分の工夫を楽しめない「習い事」にすり替わっている。
 ※工夫しない遊びの広がり、オリジナルの工夫をする機会がなくなった結果、思考回路を作ることができなくなった。

※意識して生活速度をゆっくりにし、感情が流れる時間を作り出す。味わう生活をする。
 ※生活の中の工夫を促す。
 ※生活の中で工夫を促す。しかし、生活を一変させることは難しいので、感味の保持に努める。
 生活のスピードを「ゆっくり」にすることがポイント。
 Slow Life is the best for your children.

※生活速度が速くなり感情が流れる時間を無視して生活をしている。
 ※工夫しない生活が広がり、日常的に工夫する必要なくなったために、思考回路を作るといった機会がなくなった。
 ※感情育成を疎外する。知的系統的学習をさせている。脳の熟成変移を無視して、感情育成を妨げている。
 ※徹底反復・高速計算・大量暗記
 ※工夫しない学習の強化

感味の保持と全教科で思考力を活用した思考力養成をする